

公表

事業所における自己評価結果【放課後等デイサービス】

事業所名		公表日				
ウィズユー南中野		2025年 12月 15日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		限られた空間での活動になるため、事故がないよう細心の注意を払い環境設定している。	身体を動かして遊びたい児童と座って遊びたい児童がいるため、環境設定により一層留意していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	10		その日の児童の特性や様子に合わせ、指導員の対応や配置に留意している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		区切りがない箇所もあるため、目で見てわかりやすいよう線や色等の違いで示すようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		日々、子どもたちが不在の状況で掃除を行い清潔を保つようにしている。	おやつ後に床が汚れている際は速やかに片づけ、誤食等を予防する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		必要に応じて個別の部屋で対応。職員が付き外からいつでも開けられる状態で対応。またカメラも設置されている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		ミーティング等の時間で意識的に行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		意向等を把握し、職員全体に周知するとともに、改善に繋げている。また、評価表の集計結果は法人ホームページにて公表している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		ミーティングを通し、意見交換の場を設けている。	意見交換で済んでしまわないよう、改善に繋がるよう心掛ける。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	8		第三者評価委員会は行っていないが、連携機関等からの評価をもとに、業務改善を行っている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	10		各種必須の研修を定期的に行っている。また外部研修への参加も積極的に出席している。	専門職としての自覚を促し、自己研鑽の重要性についてより一層共有していく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		法人ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		ニーズに合った支援を行えるよう、面談や会議を通し、きめ細やかな計画作成に努めている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		モニタリングや担当者会議を開き、一人ひとりの職員の意見を計画作成に反映している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		全職員に回覧・周知し、確認しながら行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		標準化されたアセスメントツールの活用の他に、日々の朝礼時にケースカンファレンスを行っている。	常に良いアセスメントツールの情報収集をし、良いものを取り入れていきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		偏りがないよう、全員でプログラムを検討している。	意見を取り入れながら、様々な観点で立案していきたい。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	季節のイベント等も取り入れながら、固定化し	子どもたちの反応等も踏まえ、全員が楽しく意欲的に過ごせるよう検討していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	児童に応じて個別活動と集団活動のバランスを考えながら支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	毎日ミーティングを行い、ケースカンファレンスも行い、確認している。	チームでの支援をより一層意識し、声をかけ合いながら支援していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	終了後は送迎もあるため時間的に難しいが、朝のミーティングの際に前日の振り返りを行っている。	緊急性の高い事項については当日にも情報共有を行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	過去の記録を確認し、支援の改善に繋がるよう意識している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	それぞれ定期的にモニタリングを行い、見直しを行っている。	職員間での情報共有を徹底する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10	ガイドラインに沿った支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	言葉での意思表示が難しい児童でも選択肢から選べるよう支援するなどし、自己選択できるよう工夫している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	事前に職員会議を開き所内でよく話し合った上で、児童発達支援管理責任者等が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	必要に応じ、連携できるよう体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	保護者を通して時間の確認を行ったり、学校との連絡会に出席するなどして連携している。	学校ごとのルールを職員間で齟齬が無いよう共有していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10	必要に応じて情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10		必要に応じ、情報共有を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	必要に応じ、機会を設けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	公園や公共施設等への外出レクの中で自然な交流の機会はある。	状況に応じて機会を増やしていくことを検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10	開催があれば積極的に参加する。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	保護者の方と話す機会がある際は、情報の交換・共有を行い、共通理解に繋げている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		面談の中で個別に助言は行っているがプログラムとしては行っていない。状況に応じて検討していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	見学や契約の際に、書面を読み合わせながら丁寧にお伝えし、理解を図っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	ニーズの確認を徹底し、意思表示が可能なお子さんに対して聞き取りを行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	相違がないよう確認しながら同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		個別支援計画書の更新のタイミングや保護者からの要望があった際には面談し、必要な助言を行っている。	気軽に相談してもらえるよう家族支援加算などについても説明・周知していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		10		現状行っていないが、必要に応じ検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		申入れがあれば迅速な対応を心がけている。	引き続き、迅速な対応が行えるよう体制を整えていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		定期的にSNS（インスタグラム等）の更新を行い、情報発信をしている。	保護者の方にも周知していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	1	ガイドラインに沿って十分留意している。また、同意をとる必要があることについては書面にて同意を得るようにしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		必要に応じて書面にて説明する等の配慮をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	6		必要に応じて検討したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		様々な状況を想定し備えている。また、避難経路は入口に掲示し、いつでも確認できるようにしている。	掲示物を周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		定期的に避難訓練を行う。	避難訓練の実施があった時は保護者に周知する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		アセスメントで対応方法含め情報収集し、職員間で情報共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		アセスメントで対応方法含め情報収集し、職員間で情報共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全計画に基づき、適時研修も受講し、支援している。	新しい職員も順次必要な研修が受けられるようにしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		契約時含め、面談時等に周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1	ヒヤリハット事案が発生した際には、ヒヤリハットの用紙の記入、回覧、検討会を行っている。	引き続き職員全員の事故防止意識の向上を図っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		適切な対応をするため定期的に研修会を実施し、ケースカンファレンスも行い虐待防止に努めている。	引き続き施設全体で虐待防止の意識向上を図っていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		支援計画書に記載した上で、説明を行っている。	